

令和3年度(2021年度)

管理事業名	自然の家事業			総合計画の体系	大綱 4 子育て・学び 政策 3 青少年がすこやかに育つまちづくり 施策 1 青少年の健全育成
主な歳出予算科目	一般会計	(款) 10	教育費	(項) 5	社会教育費 (目) 12 自然の家費
部局名	地域教育部	予算執行所属	青少年室		
予算大事業名	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名				
自然の家事業					
事業の目的と概要 【目的】豊かな自然環境を生かし、青少年の自然体験学習をはじめとする市民の生涯学習のための施設として、また市民が日常から離れて余暇を過ごす場として、青少年の健やかな成長と全ての世代の心身の健康の増進に寄与することを目的としています。 【概要】昭和55年(1980年)にオープンした自然の家は、令和2年度から教育施設から生涯学習施設へとその設置目的を変更し、民間のノウハウを取り入れた指定管理による施設運営により、利用者サービスの向上と効率的な管理運営を行います。					

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	成果指標の定義
自然の家利用者数	人	16,290	4,510	10,394	施設の延べ利用者(利用人数×利用日数)
自然の家の利用率	%	77	36	52	年間開日数に対する利用日数の割合
自然の家利用団体件数	件	299	223	504	年間の利用団体数
成果の説明	令和3年度は、利用者の安心・安全を第一に考える施設運営に取り組みましたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う8月27日から9月30日の間の臨時休館やそれ以外の期間においても利用場所及び人数等の制限による受け入れを行いました。緊急事態宣言が解除されている時期に利用が集中し、特に11月には月間の開所利用率が100%となり、学校団体だけでも16校、2,745人の利用がありました。 最終的には、令和2年度と比較し、利用者数が約2.3倍、利用団体数は約2.26倍となりました。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	令和元年度	令和2年度 A	令和3年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	1,938	1,117	2,287	1,170
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	96	69	55	△13
経常収入 小計(a)	2,035	1,186	2,343	1,157
給与関係費	37,274	21,443	21,381	△62
物件費	33,057	65,662	69,713	4,051
維持補修費	14,768	11,036	3,735	△7,301
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	902	117	504	387
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	8,747	9,297	15,351	6,054
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	1,976	1,972	1,739	△233
退職手当引当金繰入額	479	868	1,068	200
支払利息	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	97,203	110,395	113,490	3,095
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△95,168	△109,209	△111,147	△1,939
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別費用	-	-	-	-
固定資産除売却損	0	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	0	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	△0	-	-	-
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△95,168	△109,209	△111,147	△1,939
一般財源充当額	87,664	213,581	96,429	△117,152
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	△7,504	104,372	△14,718	△119,090

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
経常収入 使用料及び 手数料	施設使用料 2,287千円
経常費用 物件費	指定管理委託料 67,777千円

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	令和元年度	令和2年度 A	令和3年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	2,035	1,186	2,343	1,157
行政サービス活動支出	89,699	101,986	98,772	△3,214
行政サービス活動収支差額	△87,664	△100,800	△96,429	4,371
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	-	112,781	-	△112,781
投資活動収支差額	-	△112,781	-	112,781
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	-	-	-	-
財務活動収支差額	-	-	-	-
収支差額 合計	△87,664	△213,581	△96,429	117,152
一般財源充当額	87,664	213,581	96,429	△117,152
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の 主な内容	(行政サービス活動収入) 利用者増加に伴う施設使用料の増加
--------------	----------------------------------

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
開所日1日あたりのコスト	令和元年度	246 日	395,134 円	開所日1日あたりのコストは昨年より134,777円減少しました。 主な要因として、施設の開所日が増加したことによります。
	令和2年度	298 日	370,453 円	
	令和3年度	314 日	235,676 円	
利用者1人あたりのコスト	令和元年度	16,290 人	5,967 円	利用者1日あたりのコストは昨年度より17,359円減少しました。 主な要因として、利用者が増加したことによります。
	令和2年度	4,510 人	24,478 円	
	令和3年度	10,394 人	7,120 円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	令和2年度末 A	令和3年度末 B	差額 B-A	勘定科目	令和2年度末 A	令和3年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	1,972	1,739	△233
未収金	-	-	-	地方債	-	-	-
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	1,972	1,739	△233
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	-	-	-
有形固定資産	1,159,599	1,144,248	△15,351	固定負債	17,797	17,398	△399
土地	964,984	964,984	-	地方債	-	-	-
建物・工作物	194,615	179,264	△15,351	長期借入金	-	-	-
リース資産	-	-	-	退職手当引当金	17,797	17,398	△399
建設仮勘定	-	-	-	リース債務	-	-	-
無形固定資産	240	240	-	その他固定負債	-	-	-
固定資産	-	-	-	負債の部合計	19,769	19,137	△632
インフラ資産	-	-	-	純資産	1,140,070	1,125,352	△14,718
土地	-	-	-				
建物・工作物	-	-	-	純資産の部合計	1,140,070	1,125,352	△14,718
建設仮勘定	-	-	-				
重要物品	-	-	-	負債及び純資産の部合計	1,159,839	1,144,488	△15,351
図書館資料	-	-	-				
投資その他の資産	-	-	-				
出資金	-	-	-				
長期貸付金	-	-	-				
基金	-	-	-				
徴収不能引当金	-	-	-				
その他債権	-	-	-				
資産の部合計	1,159,839	1,144,488	△15,351				

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

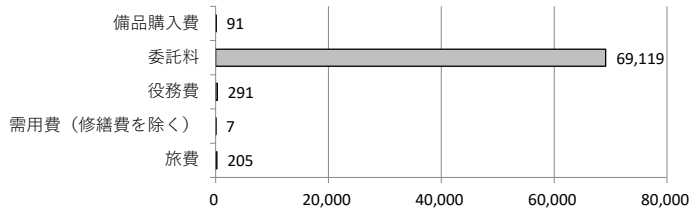
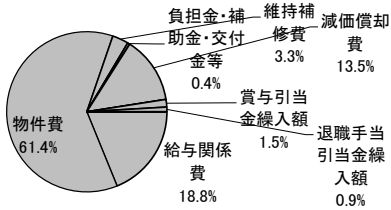
事業従事人数	常勤・再任用	会計年度任用等	特別職非常勤	合計(千円)
	月平均	年間従事延日数	年間従事延日数	
	3人	0日	6日	
給与関係費等	24,137千円	0千円	51千円	24,188
内、時間外勤務手当	0千円			

貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
建物・工作物	令和2年度は、トイレ・空調設備改修工事費用がかかったため

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹田市立自然の家
取得年月日	昭和55年(1980年)5月5日
建物・工作物の取得価額	528,122千円
建物・工作物の減価償却累計額	348,858千円
利用料金収入	2,287千円

▽分析指標

(単位:%)

分析指標	令和元年度	令和2年度 A	令和3年度 B	差 B-A
施設維持補修費比率	3.6	2.1	0.7	△1.4
施設老朽化比率	78.1	63.1	66.1	3.0
受益者負担比率	2.0	1.0	2.0	1.0
徴収不能引当率	-	-	-	-
一般財源充当比率	97.7	99.4	97.6	△1.8
経常費用対公共資産比率	23.4	20.9	21.5	0.6

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.6%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

経常経費の主なものは、物件費69,713千円(61.4%)、給与関係費が21,381千円(18.8%)、減価償却費15,351千円(13.5%)となっています。物件費の主な内訳は、67,777千円が指定管理委託料です。
 経常収入の自然の家使用料は2,287千円で、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う臨時休所や定員縮小などの利用制限をしたうえでの受け入れでしたが、前年度と比較し約48.8%増加しました。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

幼児から高齢者まで全ての世代の方が利用できる生涯学習施設として、引き続き指定管理者による施設運営を行いました。
 また、新型コロナウイルス感染症対策として洗面所等の自動水栓化等、利用者利便性向上及び環境対策として食堂等照明器具のLED化を実施しました。
 令和3年度においても、新型コロナウイルス感染症の拡大による臨時休館や利用制限により計画どおりの運営ができなかった中、野外活動の専門知識を活かしたプログラム指導やきめ細やかな対応を行ったことにより、利用者アンケートでは高い評価を得ています。また、ホームページなどの広報活動により、平日の市外の学校の利用が増加、また、週末及び祝日での家族や少人数グループでの利用増加に繋がっており、引き続きさらなる利用拡大に向けて取り組みます。
 施設がオープンして42年が経過し、今後も利用者の安心、安全を第一に考え指定管理者とともに、利用者ニーズの把握や分析等について十分な意見交換を行い、本市公共施設最適化計画に基づき、年次計画的な修繕を実施しながら、令和7年度の大規模修繕工事に向けて進めていきます。